

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□増加数最多は横浜国立大、減少数最多は山口大

大学全体の志願者数の増減数が 500 人以上だった大学をまとめました。500 人以上増加した大学は 11 大学で前年度より 1 大学増加しました。設置別では、前年度は国立 7 大学、公立 3 大学でしたが、今年度は国立 10 大学、公立 1 大学と国立大の増加が目立ちました。

増加数が最も多かった大学は横浜国立大で、3,111 人(174)増加しました。前年度コロナ禍対策からほとんどの個別試験の実施を取りやめたため前期、後期ともに大幅減少しました。今年度は個別試験を予定通り実施したため、経済<前>(96)を除くいずれの学部も大幅増加しました。以下、弘前大、徳島大の上位 3 大学が 1,000 人以上の増加でした。弘前大は、前年度 3 番目に志願者数が減少した大学で、前期、後期ともに大幅減少した募集単位が多かった反動が増加要因です。徳島大は、総合科学<前>(313)や生物資源産業<後>(216)など激増した学部があり、共通テストの平均点ダウンの影響で近畿、中国地方の難関大から志望変更先として狙われた影響もありました。

一方で、500 人以上減少した大学は 15 大学で前年度より 2 大学少なくなりました。設置別では、前年度は国立 14 大学、公立 3 大学でしたが、今年度は国立 7 大学、公立 8 大学となり、国立大学が減少、公立大学が増加しました。地区別では中国地方の大学が 5 大学含まれています。これは、東海道・山陽新幹線沿線というロケーションからコロナ禍の影響による移動を敬遠した強い地元志向が緩和し、関東から九州までの大学への流出が回復したことがうかがえます。減少数が最も多かった大学は山口大で、1,248 人(81)減少しました。前年度 2 番目に志願者数が増加した大学で、前年度は全学科で工<前>(39)、工<後>(43)は増加しましたが、今年度は全学科で減少となりました。次いで、東京都立大までが 1,000 人以上の減少でした。東京都立大の経済経営<後>(30)は 2 年連続激増の反動で激減などが影響しました。

[増加数が多かった大学]

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2022年度 ／ 2021年度	2021年度 ／ 2020年度	2022 年度	2021 年度	
横浜国立大	+3,111	174	55	7,300	4,189	前年度コロナ禍対策からほとんどの個別試験の実施を取りやめたため前期、後期ともに大幅減少。今年度は個別試験を予定通り実施したため、経済<前>(96)を除くいずれの学部も大幅増加。特に、経営<後>(202)、都市科学<後>(195)、理工<後>(194)、経営<前>(194)、経済<後>(175)、理工<前>(174)は激増。
弘前大	+1,509	158	68	4,119	2,610	前期、後期とも大幅増加。全学部で前期、後期とも増加。教育<後>(253)、理工<後>(207)は激増、第2志望選抜を可能にした理工<前>(181)、さらに教育<前>(171)、農学生命科学<後>(170)、医(保健)<前>(164)は1.6倍以上の激増、人文社会科学<前>(136)は大幅増加。
徳島大	+1,159	126	95	5,591	4,432	前期、後期とも大幅増加。総合科学<前>(313)、生物資源産業<後>(216)、生物資源産業<前>(195)、総合科学<後>(187)、医(保健)<後>(158)、学科全体での選抜からコース別選抜に変更した理工<前>(124)は大幅増加。
北海道大	+895	110	88	9,516	8,621	後期は大幅増加、前期はやや増加。経済<後>(184)、薬<後>(174)、歯<前>(171)は前年度大幅減少の反動でいずれも激増、獣医<後>(143)、工<後>(128)、水産<前>(120)は大幅増加。コロナ禍による道外からの長距離移動への敬遠の緩和も影響。
山梨大	+871	132	86	3,561	2,690	前期、後期とも大幅増加。医(看護)<後>(47)、<前>(57)の大幅減少を除きいずれも増加で、医(医)<後>(153)、生命環境<後>(140)、工<前>(128)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。工<後>(151)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

2022年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2022年度 ／ 2021年度	2021年度 ／ 2020年度	2022 年度	2021 年度	
大分大	+806	129	78	3,589	2,783	前期、後期とも大幅増加。後期は、医(看護)〈後〉の新規実施も影響。医(看護)〈前〉(248)、理工〈後〉(187)、理工〈前〉(145)、福祉健康科学〈後〉(138)、教育〈前〉(132)、教育〈後〉(126)はいずれも2年連続減少の反動で大幅増加。医(医)〈前〉(142)は3年連続減少の反動で大幅増加。
広島大	+779	113	92	6,890	6,111	後期は大幅増加、前期は微減。生物生産〈後〉(193)、工〈後〉(191)、経済〈後〉(178)、歯〈後〉(168)、法〈後〉(167)、文〈後〉(163)、総合科学〈後〉(154)は、大幅増加。
新潟大	+766	115	87	5,939	5,173	後期は大幅増加、前期は増加。経済科学〈後〉(177)は前年度大幅減少の反動で激増で、志願者数は改組前の2017年度以来5年ぶりに600人を超えた。農〈後〉(171)、歯〈後〉(146)、農〈前〉(132)、理〈前〉(128)は大幅増加。
長崎県立大	+648	123	94	3,421	2,773	前期、後期とも大幅増加。地域創造〈後〉(175)、地域創造〈前〉(167)、看護栄養〈前〉(138)、看護栄養〈後〉(133)、情報システム〈前〉(125)、情報システム〈後〉(125)は大幅増加。
福井大	+647	124	81	3,396	2,749	前期、後期とも大幅増加。医(看護)〈前〉(300)、医(医)〈前〉(192)、教育〈前〉(191)、教育〈後〉(174)、国際地域〈前〉(144)は大幅増加。医(医)〈後〉(124)は富山大医(医)〈後〉の廃止の影響で大幅増加。
大阪大	+510	107	94	7,501	6,991	前期のみの募集で、やや増加。医(保健)〈前〉(156)、人間科学〈前〉(122)、薬〈前〉(122)、経済〈前〉(121)は前年度減少の募集単位が多かった反動で大幅増加。法〈前〉(128)は2年連続増加。共通テストの平均点ダウンにより、個別試験での逆転を考える層の流入もあった。

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2022年度 ／ 2021年度	2021年度 ／ 2020年度	2022 年度	2021 年度	
山口大	-1,248	81	119	5,385	6,633	前期は大幅減少、後期は減少。工〈前〉(39)、工〈後〉(43)はいずれも前年度大幅増加の反動で全学科減少の大幅減少。募集人員減少の教育〈前〉(73)も大幅減少。医(医)(70)〈前〉、医(保健)(85)〈前〉はいずれも大幅減少。中国地方におけるコロナ禍による地元志向の緩和も影響。
東京都立大	-1,034	87	98	6,724	7,758	前期はやや減少、後期は大幅減少。経済経営〈後〉(30)は2年連続激増の反動で激減、システムデザイン〈後〉(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、人文社会〈後〉(72)、都市環境〈後〉(76)はいずれも大幅減少。
千葉大	-934	92	113	10,631	11,565	前期はやや減少、後期は減少。法政経〈後〉(65)は3年連続増加の反動で大幅減少、文〈後〉(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。園芸〈後〉(117)、〈前〉(114)、薬〈前〉(115)、看護〈前〉(104)を除きいずれも減少。
下関市立大	-916	73	88	2,470	3,386	前期、中期ともに大幅減少。経済〈前〉(53)は3年連続増加の反動で大幅減少。経済〈中〉(80)は2年連続大幅減少。志願者数も2,000人を下回った。
兵庫県立大	-834	87	112	5,668	6,502	前期は減少、後期は大幅減少、中期は微減。社会情報科学〈前〉(62)、看護〈後〉(64)、環境人間〈後〉(75)、国際商経〈後〉(76)、工〈前〉(79)、社会情報科学〈中〉(80)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。工〈後〉(70)は3年連続増加の反動で大幅減少。
高崎経済大	-831	86	95	5,090	5,921	前期、後期はいずれも大幅減少、中期は前年度並。地域政策〈後〉(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、地域政策〈前〉(60)は4年連続減少で、志願者数はいずれも1,000人を下回った。経済〈前〉(131)は大幅増加。

2022 年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2022年度 ／ 2021年度	2021年度 ／ 2020年度	2022 年度	2021 年度	
三重大	-783	86	118	4,782	5,565	前期は大幅減少、後期はやや減少。教育<前>(44)、教育<後>(58)、生物資源<後>(66)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
富山大	-736	90	99	6,495	7,231	前期、後期ともに減少。医(医)<後>の募集停止(前年度志願者数378人)が影響。さらに、医(看護)<前>(48)、工<後>(55)、芸術文化<後>(71)、工<前>(73)、薬<前>(78)はいずれも前年度増加の反動で大幅減少。
北海道教育大	-707	80	101	2,763	3,470	前期、後期ともに大幅減少。釧路校<前>(51)、釧路校<後>(51)、岩見沢校<前>(73)、札幌校<後>(84)はいずれも前年度増加の反動で減少、函館校<前>(81)は5年連続減少。コロナ禍による札幌を除いた地方での地元志向の緩和も影響。
県立広島大	-609	71	142	1,513	2,122	前期は減少、後期は大幅減少。地域創生<後>(36)は前年度開設2年目で激増した反動で激減、生物資源科学<後>(50)、生物資源科学<前>(52)も前年度開設2年目で大幅増加の反動で半減。
大阪公立大	-601	96	100	13,188	13,789	旧大阪市立大と旧大阪府立大が統合した大阪公立大は、旧2大学との比較で、前期、後期とも大幅減少、中期は大幅増加。旧2大学合計との比較において募集人員の減少と工<後>(前年度志願者数802人)の募集停止が影響。募集人員が36%減少した経済<前>(36)は激減。
名古屋工業大	-522	87	101	3,480	4,000	前期は大幅減少、後期はやや減少。工<前>(82)は大幅減少で2年連続減少、工<後>(95)は前年度募集人員減少と志願者数増加で志願倍率がアップした反動でやや減少。
尾道市立大	-509	70	106	1,201	1,710	前期、後期とも大幅減少。経済情報<前>(58)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。経済情報<後>(67)は前年度3年ぶりに増加したが、大幅減少で再び減少に転じた。
名桜大	-506	62	104	827	1,333	前期、後期とも大幅減少。国際<前>(52)は3年連続減少で大幅減少、国際<後>(56)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。人間健康<後>(72)は大幅減少で2年連続減少、人間健康<前>(73)は2年連続増加の反動で大幅減少。
岡山大	-502	90	110	4,678	5,180	前期はやや減少、後期は大幅減少。工<後>(56)、経済<後>(69)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、教育<前>(74)は前年度増加の反動と募集人員減少により大幅減少。経済<前>(75)、農<後>(78)、歯<後>(78)も大幅減少。中国地方におけるコロナ禍による地元志向の緩和も影響。